

## 令和4年度 研究助成費報告書

ふりがな 研究者代表者氏名	ふじい ひろあき 藤井 弘章 (印)	所属研究機関 部局・職	近畿大学文芸学部文化・歴史学科教授			
研究課題	和歌山県を中心とした櫨・木蠟の歴史民俗学的研究					
研究経費	年度	研究経費 (円)	使用内訳(円)			
			物品	旅費	謝金	その他
	令和4年度	400,000	108,115	194,773	0	97,112
	計	400,000	108,115	194,773	0	97,112
研究組織(研究代表者及び研究分担者)(研究分担者も、本研究計画に常時参加する者です。)						
氏名(年齢)	所属研究機関・部局・職	現在の専門	学位	役割分担 (本年度の実施計画に対する分担事項)		
藤井弘章(53)	近畿大学文芸学部文化・歴史学科教授	民俗学	博士(人間・環境学)	研究の企画、調査の実行、結果の分析・発表		
合計 1 名 (うち他機関分担者数 名)						

## 研究課題名: 和歌山県を中心とした榎・木蠟の歴史民俗学的研究

## 研究結果

(年度別に具体的かつ明確に記入して下さい。)

本研究は、文献および聞き取り調査により、和歌山県を中心に榎・木蠟に関して歴史民俗学的に考察することを目的として実施した。おおむね順調に調査・研究を進めることができ、以下のような成果をあげてきている。ただし、予想以上に時間がかかり、申請書に記入した内容すべてを完了することはできなかった。そうした部分については、今後も継続した調査・研究を実施したいと考えている。

1. 研究代表者は、本助成を取得する以前から和歌山県の葡萄榎栽培地、製蠟所などにおいて、現地見学と聞き取り調査をおこなってきた。本研究以前から進めていた調査内容も用いつつ、有田川町の榎栽培家の古老が有してきた葡萄榎の接ぎ木・収穫の民俗技術を克明に記録し、そうした技術が県(農林部局)や地域の民間団体において受け継がれようとしている現状について論文化した。

藤井弘章2022「和歌山県有田川上中流域における榎の民俗 ―榎の栽培・採取に関する民俗技術の継承―」『民俗文化』(近畿大学民俗学研究所紀要)34

2. 本研究では、とくに製蠟作業についての見学および聞き取り調査を実施した。製蠟作業とは、榎の実を搾って、木蠟を製造することを指している。現在、この作業をおこなっているのは和歌山県内では海南市の吉田製蠟所が唯一となっている。吉田製蠟所を数回にわたって訪問し、作業の聞き取りをおこないつつ、製蠟作業の見学をおこなった(写真①)。調査の過程で、吉田製蠟所で撮影した昭和初期の古写真が和歌山市立子ども科学館に残っていることが分かった。(大西2023)のなかで、吉田悦子氏が見せている昭和初期の作業風景の写真は研究代表者が本研究のなかで発見したものである。このほかにも吉田製蠟所を対象にした過去のさまざまな調査記録も把握することができた。吉田製蠟所の歴史、作業工程などについては、近日中に論文化をして、成果を公表する予定にしている。

3. 有田川町における製蠟調査も実施した。有田川町の製蠟所については、これまでほとんど報告などは見られなかったが、地域において聞き取り調査などを実施した結果、昭和初期まで製蠟をおこなっていた家、平成まで製蠟をおこなっていた家が判明し、いずれも製蠟作業の経験者に話を聞くことができた。これについても、吉田製蠟所とは別に、近日中に論文化をして、成果を公表する予定にしている。

4. 和歌山県内で榎栽培農家に関する聞き取りもおこなった。紀美野町において、榎採り名人と呼ばれていた方の家が分かり、家族に聞き取りをおこなうことができた。紀美野町では、昭和初期の榎採りの文書も発見した。有田川町では、昭和中期まで榎採りをおこなっていた方に聞き取りができた。その家では榎採りの鉤、籠が残っていることも判明した(写真②)。紀の川市でも榎を集積する農家があったことが分かった。これらの情報は断片的であるため、まとめた成果とするためには、継続した調査が必要となる。

5. 榎・木蠟関係の文献調査を進めた。とくに、和歌山県の郷土史・自治体史および、大正から昭和初期に刊行された和歌山県山林会の機関紙『和歌山県山林会報』・『木の国山林時報』を中心に調査した。『和歌山県山林会報』・『木の国山林時報』については、バックナンバーすべてを所蔵している機関が見つからず、網羅的な把握まではできなかった。この成果をまとめるためには、継続した調査が必要となる。

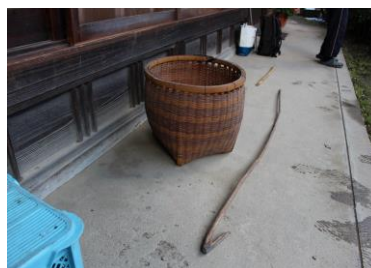
6. 現在、和歌山県農林水産部森林・林業局林業振興課、和歌山県林業試験場特用林産部と、地域の栽培者、製蠟所、地元の高校、および県外の榎・木蠟関係者なども連携して、和歌山県において榎・木蠟産業の復活を目指す試みがおこなわれている(写真③)。研究代表者は、榎・木蠟について歴史民俗学的な調査・研究をおこなうだけでなく、こうした取り組みに貢献することを目指してきた。具体的には、上記の1~5で得てきた情報・知見を関係者に提供しつつ、関係者間の橋渡し役を心がけた。このような取り組みは、フリーカメラマンの大西暢夫氏がまとめている。参考資料として提示しておく。

大西暢夫2023「地影り 24 よみがえったブドウハゼ 和歌山県紀美野町・海南市」『季刊地域』54

上記のように、本研究はおおむね順調に調査を進めることができ、部分的に成果を公表することができている。また、近日中に公表できるものもある。和歌山県における榎・木蠟産業の復活に貢献できていることも実感している。ただし、和歌山県内の文献、聞き取り調査のみならず、九州・四国方面の調査を本格的に実施することができなかった。榎・木蠟に関する歴史民俗学的な調査・研究は継続して実施したいと考えている。



①製蠟作業(海南市)

②榎採りの鉤と籠  
(有田川町)

③現在の榎の収穫作業(有田市)